

BOOK! BOOK! BOOK!

尼崎の民話をご存知ですか？ 市内各地には神話の時代から昭和初期にいたるまで数々の民話が残されています。

そんな市内に伝わる民話や伝説などを、童話風にイラストを交えながら紹介しているのが、今回紹介する『尼崎の民話』です。享保の時代に日本にソウがやってきて、江戸へ向かう途中、尼崎に立ち寄った話。武庫川が「天井川」と言われていた時代、荒れ狂う川で、そこに渡しの舟があった話。天狗塚のてんぐさんの話。心があたたまるお話もあれば、悲しいお話も、戒めのお話もあります。読んでいると、その舞台となる時代の尼崎の様子が思い浮かんできて、「昔はこうやったんやなあ」と当時に思いを馳せるきっかけになるんです。

暮らす町の民話を、お子さんと一緒に読んでみませんか？

尼崎の民話 全3集

※尼崎市立地域研究史料館や中央図書館で借りることができます。



発行／尼崎市教育委員会事務局青少年教育部児童課
発行日／1991年3月20日

第1集

きつねのよめいり(武庫川・創作)、天ぐさんの涙(南清水・園田)、綱とおにの右うで(常吉・武庫)、ひげの渡し(常松・武庫)、きつねと野施行(市内全域)、茨木童子(東富松・立花)、一ばんどりと菅公さん(長洲・小田)、雉と武庫川(大庄西・大庄)、名月姫(尾浜・立花)、田を守った五兵衛さん(武庫庄・武庫)

第2集

このはなさくやひめ(難波・本庁)、井戸におちたかみなり(昔話・不詳)、秀吉のみそすり坊主(寺町・本庁)、水害を防いだ徳本上人(守部・武庫)、神崎のこい(神崎・小田)、残念さん(杭瀬・小田)、女神たちのあらい(昔話・不詳)、大関琴の浦(中在家・本庁)、こんな顔かい(昔話・沖合)、神様のお使い(穴太・園田)

第3集

芦刈りと浦の初島(築地・本庁)、享保のぞう行列(西国街道通過)、金衆寺のマメダ(水堂・立花)、どろつき地藏(上守部・武庫)、子育てゆうれい(寺町・本庁)、さかさ川(水堂・立花)、船弁慶(大物・本庁)、カッパとお不動さん(神田南・本庁)、赤エビ(水堂・立花)、村をすくった三平(御園・園田)

尼崎市立地域研究史料館の河野さん(写真・右)と松岡さんにお話をうかがいました。



民話や歴史を知ると、町がおもしろい！
町で見つける「？」を大切に
日常のなかで、子どもと一緒に時代旅行



米つき石

町のいたるところに、民話や歴史とつながる入口があります。

たとえば、あちらこちらに米つき石が置いてあるのをご存知ですか。米つき石とは、米の脱穀などを行なう時に使われていた石です。昔、多くの農家で使われていました。今では道路の端などに寄せていくつか転がっているので、ぱっと見ただけではただの「大きな石」です。でも、それが米つき石であることがわかるだけで、いつもの風景が昔とつながって特別な風景に変わります。

たとえば、神社の社殿の向きを気にしたことがありますか。大鳥神社(大庄北1丁目)は社殿が西向きと珍しいのですが、これは武庫川の氾濫を防ぐ『西向の鎮守さま』として崇敬されてきたという説があるからと言われています。いつもなら神社の向きを気にすることはないと思います。でも、「そういうことがあるんだ」と知ると、「あそこの神社はどうだろう？」と見る目が変わります。

そういうふうに、民話や歴史を知ると、町の風景がおもしろくなって、そこから何かと、誰かとつながるきっかけが増えるんです。お子さんがいたら、いろんな「？」が出てくると思うので、もっと楽しいと思いますよ！

暮らす町が、もっと好きになる、おもしろくなる!!
ヒントを見つけに行ってみて！

尼崎市立地域研究史料館

尼崎市の古文書や近現代文書類、歴史的公文書、図書、地図、写真、絵はがき、チラシなどを幅広く集めて保存・提供している施設です。「地名の由来は?」「尼崎はなぜ06局番?」「近所のあの建物が気になる!」など、地域や歴史のことで「?」があれば、行ってみてください。窓口で相談すると「なるほど〜」なトリビア的発見があるかも！



※入館・閲覧 無料

【開館時間】9:00~17:30 【休館日】火、祝、年末年始(12/29~1/3)、整理休館日(春・秋季各1週間)

【所在地】昭和通2-7-16 尼崎市総合文化センター7階

【問合せ】電話 06-6482-5246 FAX 06-6482-5244

ama-chiiki-shiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

★WEBサイトも、Web版『図説 尼崎の歴史』や『尼崎地域史事典』を閲覧できるなど内容が充実しています。

<http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/>

(取材／小森)